

# げんき通信

## 水虫のおはなし

治療する上で何より大切なことは毎日根気よく続けることです。



《医大通り店・薬剤師/むらち》

日本人の5人にひとりを悩ませているといわれる水虫は白癬菌(カビの一種)が原因で起こります。この菌は皮膚の一番外側の角質層に住みついております。ケラチンというたんぱく質を栄養源として繁殖します。暖かくて湿った環境を非常に好むので、梅雨から夏にかけてのシーズンが最も活動が盛んになります。ただし、その他の季節でも靴の中は高温多湿になりやすいので、長時間靴を履いている人は注意が必要です。白癬菌は足だけでなく体のいろいろな場所でも症状を現し、感染部位によって呼称が異なります。一般に、足の裏や手のひら、爪の場合が「水虫」、太ももの内側(股部)に起こるものを「いんきんたむし」、頭部は「しろくも」、それ以外の部分のものを「たむし」と呼んでいます。

根気よく…



「水虫は治らない」という言葉をよく耳にしますが、これは完全に治らないうちに治療を中断したために再発していることが多く、また、別の皮膚病に水虫の薬を使い続けて、効果が出ないために誤解を生んでいるケースも少なくありません。皮膚は古くなった角質層が垢となつてはがれ落ち、新しい皮膚に生まれ変わるといふ新陳代謝(ターンオーバー)を繰り返しています。このターンオーバーのサイクルは約1ヶ月程度なので、白癬菌が住みついている角質層が新しくなるまで、つまり、症状が治まっても最低1ヶ月間(できればもう少し長めに)しっかりと治療しなければいけないという訳です。

### 水虫には3つのタイプが…

足の水虫には、①指間の皮がむける、②足の裏に水泡ができる、③足の裏が広く硬くなる、という3つのタイプがあります。②③の場合は水虫だと思わず放置していて、家族へ

の感染の原因にもなっているようです。

水虫の治療薬は塗り薬が一般的です。塗り薬がある期間使うと、症状は一時的に改善し

ますが、白癬菌は角質層の奥に潜んで生き残っています。薬で菌の増殖を抑えながら、感染した角質層ははがれ落ちるのを待つのが水虫を治す鍵だと言えます。

水虫薬には軟膏・クリーム、液剤、スプレーとありますが、それぞれに長所と弱点があります。患部の乾燥状態(カサカサかジュージューか)や広さ、また、ひび割れがあるかどうかなどで使い分ける必要があります。いずれにしても、せっけんをよく泡立てて患部をやさしく洗い、よく乾かしてから塗ってください。指間の水気はティッシュでふき取ることをおススメします。入浴後は皮膚が柔らかくなつて薬が浸透しやすいのでいちばん効果的です。また、患部よりやや広い範囲にぬるのがポイントです。そして、何より大切なことは毎日根気よく続けることです。

爪水虫の場合は塗り薬の浸透が悪いので、内服薬も使うことがあります。皮膚科で相談してください。

### C O L U M N

#### げんきコラム

#### 薬の保管はどうしていますか?



快適だった初夏はあっという間に過ぎ去りこれから梅雨、そして厳しい暑さがやってきます。これからの季節は食品だけではなく、薬の保管にも注意が必要です。特に外出時に薬を持ち歩く場合は、できるだけ荷物の奥の方に入れてください。ポケットの中は温度が上がるので要注意です。冷所に保存するよう指示されている坐薬、液剤、注射薬などは、保冷剤を利用するとよいでしょう。車の中に薬を置いたままにしないよう、充分注意してくださいね。

処方せんはぜんぶ「くぼ薬局」におまかせください



すべての病院・医院の処方せんを受けつけ責任を持って調剤いたします。

ご家族みなさんのかかりつけ薬局としてご利用ください

あなたのまちのくすり箱

# くぼ薬局

- 県庁通り店 ☎23-4550
- 中町店 ☎26-2817
- 木原店 ☎24-2233
- 中の小路店 ☎24-2882
- 西与賀店 ☎22-2311
- 医大通り店 ☎32-1133
- 北茂安店 ☎0942-89-1777